



利用連ニュース ボラズ

2023年3月

No.61

令和4年度・利用連学習会 「未来へ捧げる平和への願い-被爆体験伝承講話-」

令和4年11月27日(日)、平和学習をテーマに、広島平和記念資料館にて被爆体験伝承講話の受講と、資料館の見学を行いました。13団体35名が参加しました。

1 被爆体験伝承講話

はじめに、被爆体験伝承を受講しました。講師は伝承者の菅昭彦（すがあきひこ）さんです。1時間の講話でしたが、とても短く感じました。被爆体験を語り継ぐ事の大切さを感じました。

講話では当時の様子を詳細に説明されました。原爆が落ちた時の悲惨な状況が目には浮かびました。家族との絆の話、疎開先で食べ物を取り上げられたことや、被爆者に水を与えてはいけないなど・・・とても引き込まれました。

また、スライドをあまり使わずに語りかける手法で新鮮でした。中学時代の恩師との縁（えにし）で、その方の被爆体験を伝承する事になったそうです。まさに、一期一会の再会だったのですね。これからも、歴史を風化させずに伝える事が、広島に生きる私達の使命だと強く感じました。



講師の菅昭彦さん

2 広島平和記念資料館の見学

資料館は2017年に東館、2019年に本館が改修され、展示内容や展示方法もリニューアルされています。以前は両手を突き出した被爆直後の女性像に代表される「ジオラマ」が記憶にありますが、リニューアル後は、ホワイトパノラマやメディアテーブル、タッチパネルなど新しいものを取り入れながら、被爆の実相を伝える「実物」資料が展示の多くを占めています。



東館のエスカレーターで展示室に上がると被爆後負傷した少女の写真が出迎えてくれました。展示室はかなり照明を落としてあり、本館への渡り廊下の窓も光を通さないようにしてあり、私たちが今いる場所から77年前のあの日へ誘導するかのよう感じました。



「失われた市民の暮らし」



被爆後の広島のパノラマ写真が周囲の壁面にいっぱいひろがり、まるで今、自分自身が焼け野原に立たされているように感じます。ホワイトパノラマでは被爆時の俯瞰図が目の前に展開されますが、幸運にもピカもドンも爆風・熱風も再現されません。

「被爆の実相」、「8月6日の惨状」

巨大なキノコ雲の写真、爆風で曲がった鉄骨や煙突。被爆後逃げてきた人々が呆然と座り込んでいる御幸橋の写真、亡くなった生徒たちの遺品、負傷し、亡くなった姿で放置された人々の写真など、胸をえぐられるような展示です。

「放射能による被害」

頭髪が抜けた姉弟の写真、苦しみながら亡くなった家族の絵。



「魂の叫び」

原爆で亡くなって人々の身に着けていた衣服や遺品、三輪車、弁当箱、そして遺族によって語られる言葉、市民による被爆時を描いた数々の絵。新たに加わった外国人被爆者についての展示もありました。

「生きる」

被爆したN家の崩壊、原爆の子像のモデルとなった佐々木禎子さんの短い一生、原爆小頭症の親子、被爆二世たち。被爆した人々が実際に身に着けていた衣服が一様にボロボロに引きちぎられ血だらけになっているのを見るとあまりの痛ましさに涙が出ます。

途中から修学旅行生と思われる若い人たち、外国人の姿が多くなってきて、まるで満員電車なみの混雑、低いざわめきの中、数々のため息が聞こえてきました。

ここからいったんギャラリーへ、明るい陽光がいっぱいの窓からは慰霊碑と原爆ドームが一直線上に見えます。訪問した人々がそれぞれの言語で思いをつづったノートを読みました。再び渡り廊下を経て東館に戻り、3階の展示室に入ります。

「核兵器の危険性」

原子爆弾開発に至った時代背景、広島投下に至る経緯、原子爆弾の構造、投下方法、核兵器の脅威と核廃絶に向けた取り組み、世界の動向など、連日北朝鮮のミサイル発射のニュースを聞くだけにぞっとする気分になりました。続いて、階段を下りて2階へ。

「広島のおゆみ」

広島歴史と被爆後の復興への歩み、平和都市としての様々な取り組みが紹介されています。

もっとじっくりと見たかったのですが、途中から観覧者が多くなり流れ作業のように見る形となってしまいました。観覧者の多くはおそらく初めて来館し、再び来館する人は多くはないのでしょうか。広島に住む私たちはまた来ることは容易です。また来よう。忘れないために。

利用連 登録団体紹介 「ほのぼの広島会」

無理なく 楽しく ボランティア 「ほのぼの広島会」

私たちは、身体の不自由な人たちも安心して気軽に外出できる街“ほのぼの都市”をつくるために、地道な活動を続けてきました。

令和4年11月には、創立25周年を迎えました。

障害者のメンバーと共に、日帰り車いすツアーを企画・実施したり、車いすの人も可能な潮干狩り、プロ野球観戦などを実施。

また、他のボランティアグループと共に、8月6日の平和記念式典の車いす介助ボランティア、フラワーフェスティバルの障害者のパレードやブースの手伝いなどにも参加しています。

困っている人を助けたい、お互い支え合って暮らせる社会を作りたい。そう願い、そのための方法を少しずつ学びあっています。

<月例会>

開催日：毎月第2土曜日

場所：中区地域福祉センター（大手町平和ビル）

<問い合わせ先>

事務局 田中 加代子（TEL：080-3888-9939）



総会開催のご案内



利用連に登録の団体の皆様には、多岐にわたりご活躍の事と思えます。
利用連が今後、幅広く楽しい活動の場となるために、総会の場を有効活用し、たくさんの発展的なご意見を伺いたいと思えます。多くの団体の皆様のご参加をお願いいたします。

- 日時：令和5年5月31日（水）18:30～20:30
- 会場：広島市総合福祉センター 5階 ホールABC

令和5年度利用連登録更新手続きはお済ですか？

◇令和5年度の利用連登録更新手続きをお願いします！

利用連登録更新がなかった場合には登録抹消となり、ボランティア保険の加入や印刷作業室の利用等が出来なくなります。ご注意ください。

◇令和5年度ボランティア活動保険の加入受付を開始しました！

令和4年度中に加入いただいた活動保険は、令和5年3月31日で補償期間が満了となります。ご加入いただいた翌日からが補償期間となりますので、活動日の前日までに加入手続きをお願いいたします。

※保険料、補償内容の変更はありません。

保険金が支払われる主な場合

1) ケガの補償

- ・活動中に転んでケガをして通院した。
- ・活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなられた。
- ・活動中、熱中症になり通院した。
- ・活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。

ボランティア活動保険



2) 賠償責任の補償

- ・活動中、誤って車いすを転倒させお年寄りにケガを負わせた。
- ・家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花瓶を落としてこわした。
- ・自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガを負わせた。

ロッカー空き状況のお知らせ

現在、4個空いています。

利用を希望される団体は、事務局までお問い合わせください。

※利用規程により、ご利用いただけない場合がありますのでご了承ください。

～編集/発行～

広島市社会福祉協議会

広島市ボランティア情報センター利用者連絡会
〒732-0822 広島市南区松原町5番1号

広島市総合福祉センター6階

TEL 082-264-6408

FAX 082-264-6416

E-mail voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp